

ブルーベリーの育て方

苗木の選択

苗木は、品種が確実であること、新梢が太くて多いもの、根の伸張が優れているもの、病害虫に侵されていないものを選びます。1品種では結実が劣りますから、必ず2品種以上の組み合わせで買います。

植え付け

ブルーベリーの根はヒゲ根で浅根性のため、土が硬いと生育は極度に不良となり、乾燥に弱く、水分を特に好みます。さらに酸性土で生育が優れます。庭植えの場合の植え穴は、深さ40~50センチ、巾は70~100センチ位の大きさとしします。通気・排水がよい酸性土にするため、植え穴にピートモス・落ち葉・おがくずなどを十分量投入します。植え付け間隔は、2.0~3.0メートルくらい。落葉後から年内、あるいは翌年の3月上旬に植え付けます。植え付け後は土壌乾燥を防ぐために、ワラ・モミガラ・オガクズなどを10センチ程の厚さにマルチします。鉢植えは、赤玉土・鹿沼土・ピートモスの3つを混合した酸性の強い用土に植え、西日をさけ、通風のよい場所に起きます。

水管理

ブルーベリーの根は乾燥に弱く、水分を特に好みます。良好な生育のためには、庭植えの場合でも他の果樹よりも数多くかん水する必要があります。特に、梅雨明け後と冬から春先にかけての乾燥時にはたっぷりとかん水します。鉢植えの場合、乾燥時には朝夕2回のかん水が必要です。

土のpHと肥料

ブルーベリーは好酸性植物です。生育に好適な土のpHは、およそ4.3~5.5の間です。土のpHが高いと満足な生育は望めません。ピートモスの混合、硫黄粉剤の施用でpHを下げます。肥料は、アンモニア態窒素を含む完全肥料(N-P-K:1-1-1)を、例えば、2年生樹で片手で軽く一握り、萌芽期(3月上旬~中旬、春肥)、果実の発育期(5月下旬、夏肥)果実の収穫後(秋肥)に、それぞれ施用します。鉢植えでは毎月3回、玉肥を3~4コ置肥します。

結実管理

ブルーベリー樹に「雄株」「雌株」の違いはありませんが、他品種の受粉によって、結実歩合が高まり、果実が大きくなり、さらに熟期が早まります。ですから実のつきをよくして、大果を収穫するためには2~3品種を混植して、品種相互間の受粉がなされるようにします。

樹形と剪定

苗木を植え付けて3年位の間はせん定の必要はないでしょう。庭植え後4~5年すると、株元からシュートやサッカーが発生してきて、いわゆるブッシュ(やぶ状)になります。混み合っているシュートやサッカーは間引いて、主軸株(主枝)4本くらいに仕立てます。3~4年結実し続けて、細かくて弱い枝ばかり発生してよい結果枝が少なくなったら、基部から間引いて若い枝に更新します。鉢植えの場合、株仕立てか、盆栽風の単幹仕立てにします。株仕立ては主枝2~3本の樹形に育てます。

病害虫

他の果樹と比較して病害虫は少ないと言えますが、それでもアブラムシ類、カメムシ類、ヒメコガネ等の害虫がみられます。ブルーベリー果実は小鳥に大変好かれます。鳥害(ムクドリ、ヒヨドリ、スズメ等)は防鳥網で防げますが、家庭果樹の場合、果実をついばむ小鳥の飛来をみるのもまた、楽しみの一つかもしれません。

収穫

場所により異なりますが、早生種の果実は6月上旬から、晩生種の果実は7月上旬から収穫できます。1樹であるいは1果房中でもそろって成熟しないために、収穫期間が長くなり5~7日置きに3週間から1ヶ月も収穫することになります。成熟の判断は果実の外観から可能で、果色が緑色から赤色に変わり、ブルー(紫黒色~青藍色)になって、5~7日後が完熟期間です。完熟果は香や甘味が出て、指で触れるとぼろりと落ちるので、未熟果と簡単に分けられます。